

令和 3 年度

「運営に関する計画」最終評価

大阪市立南恩加島小学校

令和 4 年 3 月

大阪市立南恩加島小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校児童は、「人懐っこい」というよさがあり、進んであいさつができたり、友だちと楽しく活動できたりする児童は多い。地域の学校に対する支援は、たいへん大きなものがあり、「子どもを地域ぐるみで育む」という温かい雰囲気がある。全体としては大きな荒れはないものの、個々には、落ち着かない児童もみられる。また、家庭状況をみると、支援を要する家庭が少なからずあり、受容的でねばり強い関わりが必要となっている。
- 学校で認知したいじめは、全てにおいて解消できるように取り組んでおり、不登校の児童に対しても、チームで継続した働きかけをしている。学校のきまりを守れるようにする指導も日常的に行ってきた。昨年度の学校アンケートでは、「学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答をする児童の割合は88%、「朝食を毎日食べている」では91%と、前年度よりやや下回った。他にも、遅刻や忘れ物等の課題が残っている。早寝・早起き・朝ごはんを促す「すいみん調べ」や、学校のきまりを意識させる取り組みを今後も継続していく。
- 学力向上は最も大きな課題であり、この間「基礎・基本の定着を図る」ための取り組みを継続してきた。昨年度の学力経年調査では、同一母集団の比較(標準化得点)では、3つのうち2つの学年で前年度より向上するなど、一定の成果が得られた。しかし、1つの学年では、正答率が7割に満たない児童の割合が依然として大きく、低学力層の底上げが急務となっている。「わかる・楽しい授業」や「個に応じた指導」「言語活動の充実」等について、今後も指導法の更なる工夫や、教員の授業力向上が求められる。
- 体力面では、昨年度は全国体力・運動能力調査を実施していない。新型コロナウイルスの影響もあり、運動遊びをよくする児童とそうでない児童との二極化傾向が見られることから、今後も継続した取り組みをすすめたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成29年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本紙の平均正答数が、それぞれ100となるように標準化した得点のこと)

- 令和３年度の小学校学力経年調査における正答率５割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２９年度より５ポイント減少させる。
- 令和３年度の小学校学力経年調査における正答率７割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２９年度より５ポイント増加させる。
- 令和３年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成２９年度より増加させる。
- 令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、すべて全国平均を上回らせる。

２ 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を９５％以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を９０％以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 学校アンケートにおいて「困っている人を助けている」と肯定的回答をする児童の割合を**８５％**以上にする。
- 学校アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」と肯定的回答をする児童の割合を**９０％**以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

学校園の年度目標

- 「学力経年調査」の国語科・算数科において、いずれの学年も市平均との差を前年度より縮める。
- 国語科・算数科の単元テストの正答率を 75%以上にする。
- 学校アンケートにおける「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。
- 基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を 75%以上にする。
- 学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を **83%**以上にする。
- 学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を **83%**以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

昨年度の実態・反省を踏まえ取り組みを進めてきた結果、以下の成果をあげることができた。全市共通目標は以下の通りの達成状況であった。認知したいじめの解消した割合は 100%であり引き続き来年度も 100%解消を目指す。

「学校の決まり・規則を守っていますか」の肯定的評価は 87.5%であり、目標を下回った。不登校の課題は年々多様化し、複雑化していることから、毎月実施の生活指導連絡会で情報共有するとともに、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んでいく。

学校の年度目標では、「学校に行くのは楽しい」の肯定的評価は、91%、「困っている人を助けている」の肯定的評価は、87%と、いずれも目標を上回った。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上】

全市共通目標では、小学校学力経年調査における「標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。」については、前年度と比較すると対象3学年のうち2学年で前年度より向上させることができた。

小学校学力経年調査における「正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。」については、2学年において前年度より3ポイント以上減少させることができた。

小学校学力経年調査における「正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる」については、3学年とも前年度より市平均の2割以上上回る児童の割合が減少してしまった。

小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる、については、昨年度並みの結果だった。

本年度は、個に応じた習熟度別による学習や基礎・基本の定着を目指した朝学習に取り組んできた。今後も個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着を図ることで学力下位層を向上させていく。そのために、朝学習の充実や家庭学習習慣の定着を図っていく。また、校内研修の充実と校外研修へのより積極的な参加を通して、各教員の指導力向上を目指す。

学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にするについては、中間評価時より10ポイント程度上昇し74%になったが目標を達成することはできなかった。新型コロナの状況をみながら各学級での声掛けや体育科での指導の工夫、学校全体でのなわとび集会などに取り組み、啓発していく。

学校の年度目標では、基本的生活習慣の定着化における「早寝」の実行率については、84%と目標に達成した。今後は、早寝が定着していない児童・保護者への個別の声掛けを続け家庭と連携し健康的な生活習慣の定着率を向上させたい。

「宿題や道具を忘れず持ってきている」項目については、78%で目標も達成することができなかった。忘れる児童は固定化してきており基本的生活習慣の定着化とともに引き続き家庭と連携していく。

大阪市立南恩加島小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p><u>全市共通目標（小・中学校）</u></p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○学校アンケートにおける「困っている人を助けている」に対して肯定的に回答をする児童の割合を85%以上にする。 87%</p> <p>○学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 91%</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>認知したいじめについて、100%解消に向けて組織的に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・「いじめアンケート」を毎学期実施し、認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ➡ R2 結果：100% R3 中間：100% R3 後期 100%</p> | A |
| <p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>「学校のきまり」の内容や指導について、教職員間で意思統一を図り、児童が守ろうとする意識を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について</p> | A |

| | |
|---|---|
| <p>て、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 88%以上にする。 ➡ R2 結果：87.9% R3 結果：87.5%</p> | |
| <p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 学級活動の充実や児童集会・異学年活動の工夫により、よりよい人間関係を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「同じクラスや縦割り班、他の学年との活動が楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。 ➡ R2 結果：81.6% R3 中間 84% R3 後期：88% ・学校アンケートにおける「困っている人を助けている」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ➡ R2 結果：85.7% R3 中間 79.2% R3 後期 87% | B |
| <p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】 児童理解に基づいた温かな姿勢で、一人ひとりの心情にあった支援をする。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 ・学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 ➡ R2 結果：87.3% R3 中間 83.9% R3 後期：91% | B |
| <p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 あいさつ指導を通して、地域の人や友だちへ進んであいさつできるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「進んであいさつしている」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 ➡ R2 結果：87.3% R3 中間 85.2% R3 後期：89% | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>取組内容</p> <p>①から④は達成することができた。</p> <p>⑤については、わずかに目標値より下がった結果になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会の「あいさつ週間」の取り組みも今後続けていくことが大切だと思われる。 ・定着することでさらに自然にあいさつができるようになると思われる。 ・その他取り組みも継続して行っていく。 | |

大阪市立南恩加島小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○「学力経年調査」の国語科・算数科において、市平均との差を前年度より縮める。 国語科においては、2学年で前年度より市平均との差を前年度より縮めることができた。 算数科においては、1学年は平均を上回り、1学年は横ばいであった。</p> <p>○国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><u>R3 結果：90%</u></p> <p>○基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を75%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><u>R3 後期 84%</u></p> <p>○学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><u>R3 後期 78%</u></p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 個に応じたきめ細かな指導を行ったり、繰り返し学習したりすることで、基礎・基本的な学習内容を定着させ、できる喜びを味わわせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 <p>➡ <u>R2 結果：3年 13.1% 4年 12.8% 5年 41.3% 6年 15.0%</u> <u>R3 結果：3年 34.2% 4年 18.0% 5年 8.7% 6年 36.7%</u> →前年度と比較すると2学年は前年度より向上させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする。 <p>➡ <u>R2 結果(国語):80.9% (算数):80.8%</u> <u>R3 中間(国語):78.6% (算数):79.0%</u> <u>R3 後期(国語):78.5% (算数):80.7%</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 <p>➡ <u>R2 結果：82.5% R3 中間 77.5% R3 後期：78%</u></p> | B |
| <p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 子どもが生き生きと興味をもって取り組めるよう、教材・教具・ICTの工夫、体験活動の充実など、指導法の工夫・改善を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 <p>➡ <u>R2 結果：3年 99.7 4年 99.3 5年 90.0 6年 97.8</u> <u>R3 結果：3年 96.0 4年 97.9 5年 100.7 6年 90.5</u> →前年度と比較すると2学年は前年度より向上させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 <p>➡ <u>R2 結果：3年 28.9% 4年 27.7% 5年 3.4% 6年 7.5%</u> <u>R3 結果：3年 26.3% 4年 20.5% 5年 17.4% 6年 3.3%</u> →前年度と比較すると全学年前年度より減少してしまった。</p> | B |
| <p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 話し合い活動を活発にし、伝え合い、学びあう力を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 | B |

| | |
|---|---|
| <p>➡ R2 結果 : 67.7% R3 : 結果 67.5%</p> | |
| <p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 本に親しむ機会や場（読書タイム、図書室利用、調べ学習等）を設定することで、語彙を増やし、楽しんで読書に親しむ児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標 ・学校アンケートにおける「本を読むのが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。➡ R2 結果 : 71.4% R3 中間 66.7% R3 結果 : 73%</p> | B |
| <p>取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 楽しく外国語（英語）に親しむ児童を育てるため、指導法を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・学校アンケートにおいて「外国語（英語）の授業が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ➡ R2 結果 : 81.6% R3 中間 86.1% R3 結果 81%</p> | A |
| <p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の指導を工夫するとともに、休み時間に運動場に出て遊び、学校生活全体を通して進んで体力づくりに取り組むよう指導する。</p> <hr/> <p>指標 ・学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ➡ R2 結果 : 76.7% R3 中間 64.5% R3 結果 74%</p> | B |
| <p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「睡眠時間」に重点を置き、家庭への啓発・児童への指導を行う。</p> <hr/> <p>指標 ・基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を75%以上にする。 ➡ R2 結果 : 74.7% R3 中間 74.9% R3 後期 : 84%</p> | A |
| <p>取組内容⑧【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 栄養教諭による授業を年間2回以上設定する。また、学級での食育指導を計画的に行い、児童の意識を高める。</p> <hr/> <p>指標 ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 ➡ R2 結果 : 90.3% R3 中間 88.4% R3 後期 : 90%</p> | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |

- ・学校アンケート「宿題や道具を忘れずに持ってきている」の割合が目標を達成することができなかった。日常的な声掛けなど継続した取り組みが必要である。
- ・学校アンケート「本を読むのが好き」の割合が若干目標値を下回った。しかし、図書委員会が読書活動を促す取組を活発に行い昨年度よりも結果がよくなり成果が出始めている。
- ・学校アンケート「外国語の授業が楽しい」の割合が80%を超え目標を達成することができた。ただ年度の後半に向けて学習内容の難易度があがっており、一層指導法の工夫が必要である。
- ・担任の声かけやみんな遊び、体育の授業での学習により、なわとびや鉄棒、ボール遊びなど外遊びをしている児童の割合が増えてきている。
- ・各学期の継続的な「睡眠調べ」で早寝の実行率が上がってきている。朝食を毎日食べる割合も中間と比べ上がってきた。すべて実行できていない児童がほとんどいない。
- ・特定の家庭への継続的な働きかけが必要である。